



## 企業システムの個人的模索

令和6年11月29日

黒田インターナショナル コンサルティング LLC

黒田 毅

公正さというルールは、労働意欲の向上と創造性を風土とした新しい企業システムの提案を行うものである。

これらは労働対価への正しい企業判断を共有するものである。これは労働の負荷への判断を理解し、知的労働性が、利益を捻出することへは、ストックオプションなどの手段を用い、均一賃金への移行や、共同での会議と企画など、対話の拡大における企業の新しい可能性の創造を提案するものである。

可能な、IT システムや生産設備における自動化は、労働コストの削減を与え、コスト比における導入を提案するものである。

また企業のシステム化は、社員の共有性における生産性や創造性を企業が共有するものであり、これら社員意識や理解の向上は、学習機会を拡大し、企業の新たな可能性の創造を提案できるものである。

公正なルールは、社員の労働意欲を継続するものであり、企業の理念や理想とともに、未来という可能性の実現を与えるものである。

企業が新たな社会との共生を行うことは、社会市民としての責任と参加を義務とするものである。

これらは次世代という新しい現実への参加とともに新しい企業システムの一つとして提案するものである。

またグローバリズムにおける参加はその社員における能力の育成を企業の責任として、同じ基準とルールにおける市場への参加を実現することを提案したい。

これらは既存価値観とは一線を画すものであり、しかし新しい現実におけるその要求性は存在するのである。経営チームにおける新しい基準やコンセンサスは必ず企業の未来像なのである。